

慢性肺炎に関連した乳用牛の非定型 AA アミロイドーシス：岡山県岡山家保家畜病性鑑定課 橋田明彦

2023年8月、6歳のホルスタイン種乳用牛が食欲低下、発熱、呼吸促迫を呈したため受診。約10か月間もの治療を行ったが、最終的に腸骨下リンパ節腫脹等により牛伝染性リンパ腫（BL）が疑われたため、2024年6月に鑑定殺を実施するもBLは否定。剖検では肺に多発性膿瘍を認め、病理組織検査では慢性肺炎像を呈していた。特に肝臓および腸間膜リンパ節では、コンゴレッド染色及び偏光顕微鏡観察により広範にアミロイド沈着を確認。免疫染色では血清アミロイドA陽性、透過型電子顕微鏡観察により密集した線維構造を確認。一方、腎糸球体には沈着が認められず、血清蛋白分画ではTPおよびγ-グロブリンの上昇、A/G比低下を示す慢性炎症型を示したため非定型AAアミロイドーシスと診断。腎沈着を欠くアミロイドーシスはと畜検査でいくつか報告されているが、臨床例は稀。このことから、臨床所見では非定型症例の診断が困難であるとともに、各種検査による総合的評価が不可欠である。